

世界を平等に

中札内中学校一年 伊東 駿斗

最近ではジェンダー平等についてよく話し合  
 われている。表面上はいい響きをしているが、  
 まだ根本的な解決になっていないような気が  
 する。その理由を考えた。  
 まず、人々の心底には、ジェンダー差別が  
 残っていることだ。例えば、あなたは、飛行  
 機のパイロットと聞くと男性と女性のどちら  
 を思い浮かべるだろうか。ほとんどの人が男  
 性を思い浮かべるだろう。確かに男性のパイ  
 ロットは多いかもしれない。しかし女性のパイ  
 ロットだっている。仕事名を聞いて、男性  
 もしくは女性を思い浮かべるということは、  
 心の奥底にはジェンダー差別の概念が残って  
 いることを示しているのではないだろうか。  
 次に、家庭で考えてみよう。僕の家族は母  
 が基本的に家事を行い、父が仕事をすると  
 いふ家族である。典型的な家族に見えるが、こ

れを典型的と考えることが偏見なのではない  
だろうか。また、ジェンダー平等にするためなのに、  
おかしな方向に行っていることもある。例え  
ば、大学入試の女子枠について考える。これ  
はあくまで僕の意見だが、入試では基本的に  
点数がよい方から合格していくのだが、女子  
枠を作ってしまったのは、優秀な人を選抜する  
ことができなくなってしまうのではないかと  
考える。もちろん、色々な考えがあつて女子  
枠があるのだろうが、僕は先ほど述べた理由  
により、これはよくないと考える。  
そもそも、男性だろうが女性だろうが、同  
じ人間である。なのに、どうして私たちは性  
別で差別的に考えてしまうのだろうか。自分と  
違うように思えてしまうからではないだろう  
か。僕もその気持ちはわかる。しかし、それ  
は偏見ではないだろうか。その考えを取り除  
けなければ、SDGs達成はもとより、暮ら  
しややすい世の中にはならないと思う。また、

他人を傷つける原因になると思う。  
自分の考えを話すときは自分の意見である  
ことを前置きする、誰に対しても平等に接す  
る。小さくも難しいことだが、一人一人が意  
識すること、ジェンダー問題は解決できる  
のではないだろうか。